

今日のノート

アジア十五か国に支部を持つ多国籍NGOのア

ジア医師連絡協議会（AMDA）は、昨年（2007年）のルワンダ内戦では勃発（はつぱつ）一か月後には医師、看護婦らを送り込み、難民の救援に当たった。自衛隊が派遣される五か月前だった。

『ルワンダからの証言』（中山書人、そしてアフリカ人には何も残らなかつたと言つのは、まんざらうそでもない。援助オリンピックはブームが過ぎると、何事もなかつたかのように忘れ去られてしまふことが多い。別の医師は援助には長期的視野が必要と自戒を込めてつづつている。

サハリン大地震でも素早い行動が際立った。「日本からの援助を受ければ、後で島（北方領土）を返せと言われる」。ロシア大統領の情けない発言を吹き飛ばすかのようによくに大活躍中だ。

「現在紛争をしているほとんどどの国では武器を製造できない。先進国が武器を輸出して初めて戦争が可能となる。しかも、5大武器輸出国は5つの国連常任理事国である。紛争がなくならないはずで

インド、ネパール、エチオピア、バングラデシュ、カンボジア、モザンビーク、旧ユーゴ、そして今回のサハリン……。AMDAが飛んで行く地域は多様だ。医師としての職業的倫理観がすべてに優先していることが困難な活動を支えている。ロシア大統領にコメントを求めたいものだ。

AMDA

こうした活動ができるのも経験の積み重ねと確固たる信念があるからだ、ということが同協議会の

「何が変わったのか、何ができたのであろうか。皮肉を込めてよく言われる言葉だが、お金を出すのが日本人、それを使うのが欧米

織田 峰彦